

雑がみがアートに 「ワケあり雑がみ部」成果発表展示

8月4日～8日に、せんだいメデアテーク1階オープンスクエアで、「ワケあり雑がみ部」の成果発表展示が行われました。「ワケあり雑がみ部」は、資源物である雑がみを素材にアート作品を作る、市民参加型の活動です。アーティスト藤浩志さんの企画で昨年活動を開始し、今年は5月から作品制作に取り組んできました。成果発表は仙台七夕まつりと同時期の開催で、吹き流しや短冊などの七夕飾りのほか、雑がみで作



った動物や食べ物などの自由なテーマの作品も展示されました。また、期間中は雑がみで自由に作品を作るワークショップも開催。見に来た人が参加して、新たな作品も生まれていました。

「仙台市いじめSNS相談事業」を開始

市では、中学生を対象に、近年身近なコミュニケーションの手段となっているSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用したいじめ相談事業を開始しました。専用相談窓口は、無料通信アプリ「LINE」とウェブサイトで「Webチャット」の2つを利用して開設。夏休み・秋休み・冬休み明け前後の年3回、臨床心理士等の資格を有する専門の相談員が、いじめを含めたさまざまな悩みにリアルタイムで応じます。初回は9月9日まで開設しています。また、いじめに関する情報などを学校に報告・連絡したい情報を、24時間いつでも受け付けます。預

職人技がキラリー 「せんだい職人塾」親子ふれあい探検隊

小学生と保護者が、市内の職人の仕事場を訪問し、職人技の見学と体験を行う「せんだい職人塾」親子ふれあい探検隊」を、7月21日と30日の2日間開催しました。21日は、23人の親子が、水産物仲卸業者の(株)東海と、木製建具を製造している(有)たかぎ木工を訪問。たかぎ木工では、職人がふすまや障子などの建具の作り方についてパネルや実物を使って説明をした後、子どもたちが実際にかんやのこぎりを使って木を切る体験をしました。また、枠を組み立てて紙を貼り付ける、ミニ障子作りも行いました。



▲(有)たかぎ木工では、職人から建具の作り方の説明を受けました

深沼海水浴場にぎわい再び ワイワイキャンプ

7月30・31日に、深沼海水浴場を一部開放する「あらはまワイワイキャンプ」を開催しました。当初は28日～31日開催の予定でしたが、台風の影響により2日間のみの開催となりました。



▲多くの家族連れでにぎわった深沼海水浴場

深沼海水浴場は、東日本大震災の影響で遊泳が禁止されていましたが、今年、8年ぶりに期間限定で解禁。2日間で600人が参加し、好天に恵まれた海では、子どもたちが歓声を上げながら泳いでいました。また、スイカ割りやジャンボプールなどさまざまなプログラムも開催され、訪れた人は思い思いに荒浜の海を楽しみました。

かった情報は、報告者を匿名で学校に報告します。詳しくは、対象の生徒に学校を通じて配布したチラシをご覧ください。従来から実施している「24時間いじめ相談専用電話」に加え、本事業の開始により、子どもたちが発するSOSをより機敏に受け止め、いじめの早期発見・早期対応につなげていきます。

10万人が来館―震災遺構仙台市立荒浜小学校

昨年4月から一般公開を開始した震災遺構仙台市立荒浜小学校の来館者が、7月28日に、10万人に達しました。10万人目の来館者は、長町南小学校2年生の國澤こみみさん一家です。市長から記念品を贈呈するとともに、コブシの木



▲コブシの木を植樹する郡市長（一番右）と國澤さん一家。荒浜に春の訪れを告げる木として、大きく育つことを期待します



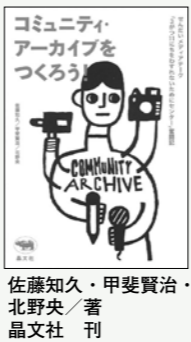
▲レッサーパンダの双子の赤ちゃん。一般公開に合わせて愛称を募集する予定です

レッサーパンダの双子の赤ちゃんが誕生

6月27日に、セルコホームズーパライズ八木山で、レッサーパンダの双子の赤ちゃんが誕生しました。レッサーパンダの誕生は2年ぶり、現在は赤ちゃんを含め7頭が動物園にいます。生後2週間で約400グラムだった赤ちゃんは1キログラムを超え、すくすく成長。活発に動き回っています。産箱の中の様子の動画は、園内のビクターセンターで公開しています。一般公開は10月中旬以降を予定していますので、お楽しみに。

3・11震災文庫を 読む

「コミュニティ・アーカイブをつくらう！」



佐藤知久・甲斐賢治・北野央晶 著刊

東日本大震災を語り継ぐための市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本をご紹介します。

市民の手によるアーカイブを後世に
3・11オモイデアーカイブ代表 佐藤正実

「手と足と眼と耳」



原田健一・水島久光 編著 学文社 刊

とこれまでの取り組みを紹介しています。

古くは弥生時代、記録に残るものとしても1149年前の貞観地震や407年前の慶長三陸地震、122年前の明治三陸地震、85年前の昭和三陸地震など、仙台平野は大きな災害に襲われ続けてきました。記録を克明に記すことで、あるいは記念碑を建てることで後世に教訓と警告を残そうとした先人たち。しかし、その度に教訓は忘却し、風化に抗えなかったことを私たちは7年前に痛感しました。

震災から約2カ月後、せんだいメデアテークに開設された「3がつ11にちをわすれないためにセンター」は、市民自らが記録するためのプラットフォームとして設立。「コミュニティ・アーカイブをつくらう！」では、コミュニティ指向の記録活動

紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585